

渋滞状況、社会に訴え

海コン協会 解消へ対策強化

阪神港海上コンテナ協会（山口与嗣雄会長）は11月15日、神戸市東灘区のファッションマーケット会議室で理事会を開き、ターミナルの渋滞解消に向けて対策を強化する方針を打ち出した。撮影機能を備えた専用車を購入して渋滞状況を撮影、ユ

ーチューブなどSNSを通じて社会に訴え、ターミナル側の対応を促す考えだ。専用車には拡声器なども備え、警察などの許可を得たうえでターミナルに向けた街宣も検討する。ターミナルの渋滞対策にはこれまでも取り組んでいるが、なかなか進展しないのが現状

だ。山口会長（近畿木材運輸）は「渋滞は社会的な問題。渋滞はドライバーの件費や燃料代に影響するだけでなく、交通事故の誘因にもなりかねない」と危惧しており、海コン協会として強い意志を持って対応することに



撮影機能などを備えた海コン協会の専用車

した。
佐賀里隆之常務理事

（協栄運輸）は「車載カメラで渋滞の現状を

撮影、ユーチューブにアップして、こんなにひどい状況だということとを社会に訴えていく。専用車で日常的にターミナルを巡回し啓発する。スピーカーで街宣もする」と話しており、以前、1週間に数回利用していたレンタル車両を買い上げて毎日巡回する態勢を整える。

山口会長や佐賀里常務理事は「一部には、協会は何もしていないという会員もいる。このままでは執行部の責

任問題にもなりかねない」と危機感を強めており、そうした会員の声にこたえるためにも渋滞対策に本腰を入れて取り組むことにした。社会的な訴えと並行して、近畿運輸局や大港労協など関係官庁・団体との協議にも弾みをつけた意向で、佐

賀里常務理事は「ヤードをフルオープンすれば渋滞が解消することはずでに実証済みだ。そのための費用をどうするのかについても関係官庁・団体などに訴えていきたい」と述べ、渋滞解消に全力を挙げる姿勢を強調した。